

3 利用状況

	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(目標)
①年間利用者数	38,888人 各種教室等を継続して開催しているが、特定の障害者施設に対するスポーツ指導の契約終了に伴い、当該施設による利用回数が減少したことや、障害者の優先利用による一般利用数の減少もあって、利用者数は大きく減少している。 障害別では知的障害の利用者が最も多く、施設別では体育館、グラウンドの利用者が多い。	37,808人 利用者数は前年度よりやや減少した。テニスコートの利用者数減少は改修工事のため3ヶ月間利用できなかったことが影響したものと思われる。各施設で利用者数が前年度より減少した一方で、体育館とプールの利用者は前年度より増加している。	43,000人 施設や組織の特性を生かした大会及び教室を企画運営するとともに、地域住民との交流の場としてのスポーツセンターの開放を進めていく。 個人や家族での利用につながるよう安全な施設利用に努めながら、各種教室への参加も呼びかけていく。
②利用者意見等の反映	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者からの口頭による要望については、内容によっては即時に対応している。(対応済のものは、職員間で共有するため、日々の職員ミーティング時に口頭で引き継ぎを行うとともに、事務所内で文書により回覧している。) ・即座に対応が困難な事例については、職員ミーティング時に様々な角度から検討した上で対応している。(緊急性の高いものについては、所長を中心に別途ケース会議を行い、対応を検討している。) ・利用者の代表や学識経験者から構成された運営委員会及び利用者との意見交換会を開催し、事業運営等に対する意見を伺った上で事業展開を図っている。 ・利用者の満足度を把握するため、随時、教室等においてアンケート調査を実施し、その結果を基に事業内容の充実に努めている。 ・「意見箱」を設置し、頂いた意見に対する回答を掲示板に掲載している。 		
③その他特記事項			

4 平成28年度業務評価

項目	状況説明
①適正な管理運営の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・以下に示した危機管理体制や個人情報保護のための対策を行っており、適切な管理運営の確保を図っている。 ・一方で、高知市が大規模災害時の避難所として障害者スポーツセンターを指定しているが、災害時の連絡体制や役割分担等が明確化されていないことが課題である。 ・また、建物・設備の修繕への対応について、指定期間における修繕計画を作成し、適切な予算配分を行うことが必要である。 <p>【危機管理体制】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 緊急連絡網を整備し、緊急事態発生時にはマニュアルに沿って冷静な対応が図れるようにしている。 2 月1回、施設や用具の安全点検を職員が実施し、施設チェックシートを作成している。 3 スポーツ現場における救命救急を習慣的に身につけるため、年1回の救急講習会を職員が受講している。 4 建物・設備の各種保守点検や定期点検を行い、その点検記録を職員ミーティングで共有している。 5 ヒヤリハット報告や事故報告を作成し、原因分析と改善策を職員間で共有している。 6 機械警備により異常があった場合には、警備会社から報告される体制が構築されている。 <p>【個人情報保護の状況】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「個人情報保護規則」を定め、それに基づき個人情報を適正に管理している。 2 個人情報は統計専用パソコンで別途管理している。(外部からのアクセスが出来ないようにしている。) 3 各種相談記録や利用者登録台帳等、個人情報の台帳については鍵付書庫で管理している。 4 職員のパソコンにはパスワードを設定し、外部の者が使用できない体制をとっている。

項 目	状 況 説 明
②利用者サービスの維持向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各種教室等の企画段階において職員間で意見交換を行い、教室参加者に満足してもらえるよう内容の充実に努めている。 ・各種教室等の開催後は、改善策等を記載した事業記録を職員間で共有するとともに、抽出して実施したアンケートの結果を踏まえ、利用者のニーズに沿った内容に見直している。 ・日本障害者スポーツ協会の指導員養成研修や健康運動指導士の研修などに職員を派遣し、スポーツだけでなく障害の理解を深める研修を受け、今後の業務に生かしている。 ・障害者の利用に関しては60日前からの予約、その他の者に関しては30日前からの予約とし、障害者の優先利用を徹底することで、障害者の利用促進につながるよう取り組んでいる。また、特定の利用団体による施設占有化とならないように調整も行っている。 ・各種教室や大会等の申し込みについて、関係諸機関や利用登録者への案内発送と同時に、ホームページ上でも参加案内やスポーツセンターの情報を掲載するなど、利用者の利便性向上を目指して取り組んでいる。(URL: http://www.kochi-scdf.com/) ・年4回の障害者スポーツセンター便りや、管理棟ロビーへの行事予定表とポスターの掲示、利用カレンダーの配布など、各種行事を積極的に広報・PRしている。
③利用実績	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度における施設の利用者数は37,808人であり、前年度と比べると約1,000人減少している。一方、平成28年度の高知県障害者スポーツ大会においては、参加者数は1,439名(前年度1,386名)であり、2年連続で過去最高を更新した。 ・近年は、障害のある方とその支援者(仲間)での利用や家族での利用が増加しており、これまでの団体中心の施設利用から、障害のある方とない方との交流の場としての利用へと徐々に変わってきている。 ・スポーツセンターを拠点として、各種スポーツ教室等を開催するとともに、総合型地域スポーツクラブとの連携により、スポーツを通じて地域の人々との交流を図ることで、障害のある人だけでなく地域住民をはじめとした障害のない人の利用にもつながっている。 ・スポーツセンターに来所できるのは県中央部に在住する方に限られる傾向があることから、関係機関との連携を図りながら、県東部や西部での障害者スポーツの普及を促進していく必要がある。
④収支の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内の温度や照度を測定し、定期的に統計をとるとともに、空調温度や設定温度を固定し、利用者には館内に掲示したうえで、クラブ代表者会議等で理解を促しながら、節約に取り組んでいる。 ・電気料についてはデマンド装置を設置し、1日の最大の電力使用が設定を超えないよう、節約に取り組んでいる。 ・裏紙を再利用するとともに、印刷枚数が多い時には、印刷単価の安い輪転機を使用することで経費節減に努めている。 ・業務に必要な経費は業者見積を比較して安い業者と契約し、経費削減に努めている。 ・スポーツ教室等の事業において、参加者から保険料程度の実費負担を徴収することに加え、団体利用者からも指導料を徴収するなど、事業の質や回数を落とさない範囲で経費を圧縮し、収支改善に努めている。 ・証拠書類や関係書類が整理・保管されており、収支の状況を適切に把握している。
総合評価	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種教室等のアンケート結果を基に、障害者のニーズを把握し、内容の改善や充実に努めるなど、障害者スポーツの普及振興に努めている。 ・障害者スポーツのきっかけづくりをはじめ、身近な地域で障害者スポーツが楽しめるように総合型地域スポーツクラブとの連携を図るなど、障害者スポーツ活動への参加が促進されている。 ・平成28年度の高知県障害者スポーツ大会参加者が過去最高となるなど、障害者スポーツの裾野の拡大に向けて取り組まれているが、県東部や西部の市町村の参加が少ないなど、県中央部と比べて障害者スポーツの普及が進んでいないのが現状であり、多様なスポーツ活動を行う環境の整備や仕組みづくりが必要である。 ・今後も、障害者スポーツセンターを拠点として、障害者のニーズに対応した教室等の事業展開や各種スポーツ大会の開催などに引き続き取り組むとともに、地域や教育、福祉関係機関等との連携を深めながら、障害者スポーツの普及振興を図ることが今まで以上に求められる。

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
- B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
- C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
- D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの